



Adobe ColdFusion 2018

ライセンスの考え方

2018.7.

株式会社サムライズ
アドビ・ソフトウェア事業部
ColdFusion ビジネスユニット

目次

1. ライセンスの種類
2. ライセンスの数え方
3. メーカーサポート
4. ColdFusion 2016へのダウングレードについて
5. ColdFusion Builder 2018のバンドル提供

1. ライセンスの種類

ColdFusion 2018には無償ライセンスと有償ライセンスがあります。

【無償ライセンス】

- ・ 体験版（トライアル）
- ・ デベロッパーエディション（開発者版）

【有償ライセンス】

- ・ エンタープライズエディション
- ・ スタンダードエディション

1. ライセンスの種類 無償ライセンス

【無償ライセンス】

・ 体験版（トライアル版）

評価を目的とするユーザーのための無償ライセンスです。
エンタープライズエディションの機能が全て搭載されています。期間制限があり、インストールから30日たつと自動的にデベロッパーエディションに変わります。

・ デベロッパーエディション（開発者版）

開発者のための無償ライセンスです。
開発者がローカルPCで開発することを前提としています。
そのため接続可能なIPアドレスの数は2つに制限されています。その他にも幾つかの機能制限があります。詳細は下記サイトをご覧ください。

<http://cfassociates.samuraiz.co.jp/index.cfm/faq/cftech/about-coldfusion-developer-edition/>

※無償ライセンスは商用利用を認められておりません。

1. ライセンスの種類 有償ライセンス

【有償ライセンス】

- ・ **スタンダードエディション**
- ・ **エンタープライズエディション**

エンタープライズ、スタンダードともに、提供は商用版とエデュケーション版（教育機関向け）の2種類です。ガバメント版は提供されていないため、政府・関連団体や官公庁がエンドユーザの場合は商用版適用となります。

エデュケーション版の対象範囲詳細はメーカーサイトでご確認いただけます。

教育機関向け 購入対象チェック ページ

<https://helpx.adobe.com/jp/x-productkb/policy-pricing/cq081918191.html>

上記ふたつのエディションは以下のように位置付けられています。

スタンダードエディション

単一のサーバー上で動く小規模のアプリケーション・WEBサイト向け。

エンタープライズエディション

クラスタ化・仮想化された環境で動く中～大規模のアプリケーション・WEBサイト向け。



1. ライセンスの種類 有償ライセンスの価格

製品名	ライセンス価格	Adobe M&S (初年度) 価格
ColdFusion 2018 エンタープライズエディション 新規ライセンス (日本語版 商用)	1,291,900円	258,380円
ColdFusion 2018 スタンダードエディション 新規ライセンス (日本語版 商用)	339,900円	67,980円
ColdFusion 2018 エンタープライズエディション 新規ライセンス (日本語版 デモバージョン)	852,600円	170,520円
ColdFusion 2018 スタンダードエディション 新規ライセンス (日本語版 デモバージョン)	224,300円	44,860円

価格はすべて税抜き価格です。

また、価格は記載時点のものです。最新の価格はサムライズの価格サイト
<https://www.samuraiz.co.jp/coldfusion/price/>
または販売店までお問合せください。

2. ライセンスの数え方

ColdFusion 2018はコア単位ライセンスです。ライセンスについての考え方は製品のバージョンごとに発行される EULA(製品使用許諾) で定義されます。

ColdFusion 2018 のEULA (日本語)

<https://www.images2.adobe.com/content/dam/acom/jp/legal/licenses-terms/pdf/ColdFusion-JP.pdf>

ColdFusion 2018 では以下の2種類の環境が定義されています。

①物理環境の場合（仮想化環境ではない場合）

- ・各物理の総コア数に対してライセンスを購入。

②仮想化環境 および クラウド環境の場合

- ・各仮想マシンの割り当てコア数に対してライセンスを購入。

どちらの環境の場合も、エンタープライズエディションは8コアまで、スタンダードエディションは2コアまでが1ライセンスでまかなえます。

数え方につきましては次ページの一覧表もご覧ください。

2. ライセンスの数え方 一覧表

	物理環境の場合（仮想化環境ではない場合）	仮想化環境 および クラウド環境の場合
Ent	<p>各物理マシンの総コア数に対してライセンスを購入します。 1台の物理マシンにつき「8コア」につき1ライセンスが必要です。</p> <p>物理マシン1台につき必ず1ライセンスが必要です。 例：4コアのサーバが2台ある場合 → 2台を合わせた場合の総コア数は8コアですが、サーバ1台につき1ライセンスが必要であるため、合計2ライセンスが必要となります。</p>	<p>各仮想マシン（仮想サーバ、VMインスタンス、ゲストOS）に割り当てられた仮想コアの数に対してライセンスを購入します。 1台の仮想マシンにつき割り当てコア数「8」個ごとに1ライセンスが必要です。</p> <p>仮想マシン1台につき必ず1ライセンスが必要です。 例：4コアを割り当てた仮想マシンが2台ある場合 → 割り当てコア数は2台合わせて8個ですが、仮想マシン1台につき1ライセンスが必要であるため、合計2ライセンスが必要となります。）</p>
Std	<p>各物理マシンの総コア数に対してライセンスを購入します。 1台の物理マシンにつき「2コア」につき1ライセンスが必要です。</p> <p>物理マシン1台につき必ず1ライセンスが必要です。</p>	<p>各仮想マシン（仮想サーバ、VMインスタンス、ゲストOS）に割り当てられた仮想コアの数に対してライセンスを購入します。1台の仮想マシンにつき割り当てコア数「2」個ごとに1ライセンスが必要です。</p> <p>仮想マシン1台につき必ず1ライセンスが必要です。</p> <p>※ スタンダード版では、仮想環境およびクラウド環境はメーカーサポート対象外です。</p>

2. ライセンスの数え方 補足

●スタンバイ機（待機サーバ）に対するライセンス購入の要不要

ColdFusionでは、障害の際の復旧を目的としてコールド状態でスタンバイしているサーバに対してはライセンスを購入する必要がありません。

ホットスタンバイの場合はライセンスの購入が必要です。なお、ホットスタンバイ用ライセンスの提供はありませんので、通常の新規ライセンスを購入する必要があります。

●開発機や検証環境で使用するライセンス

必要とする機能が無償のデベロッパーライセンスで足りない場合はライセンスを購入する必要があります。

例えば、本番環境と同じように動作させる必要がある検証環境を立てる場合、無償のデベロッパーライセンスでは接続等に制限があり本番環境と同じ動作ができないため、ライセンスの購入が必要になります。

●サーバを移行する場合のライセンスの扱い

ColdFusionのライセンスは、ハードウェアやIPアドレスに対してではなく、エンドユーザー（ライセンス管理者）に対して許諾されています。そのため、リプレイスやハードの故障などによりColdFusionを新しいサーバに入れ替える際は、旧サーバのライセンスを新サーバに移行することができます。

もし新サーバ移行にあたり、保有しているライセンス数で不足する場合には、新規ライセンスを追加で購入する必要があります。

3. メーカーサポート

ColdFusion には「**Adobe プラチナ メンテナンス & サポート**」という有償のメーカーサポートが提供されています。

(ライセンスを FLP^(※) で購入したライセンスにのみ付けることができます。)

- ・「Adobe プラチナ メンテナンス & サポート」の購入は必須ではなく任意ですが、ライセンスの購入と同じタイミングでのみ購入が可能です。あとから「Adobe プラチナ メンテナンス & サポート」だけを購入することはできません。
- ・サポートの提供期間は1年です。複数年一括購入には対応していません。
- ・アドビ社の方針により、サポート開始日やサポート期間を指定したり調整したりすることができません。メーカーがライセンスを納品した日がサポート開始日となります。

Adobe プラチナ メンテナンス&サポートの具体的な提供内容は以下の2つです。

- ・ **技術問い合わせ権利**

契約したサポートセンタへメールで技術問い合わせを行うことができます。

- ・ **最新バージョンへの無償アップグレード権利**

新バージョンがリリースされた日に有効なAdobe プラチナ メンテナンス&サポートを保有していると新バージョンのシリアルキーがアドビより自動配信されます。

(※) FLP・・・FLPとは「Form License Program」の略で、アドビ製品のライセンス販売プログラムのひとつです。FLPの他にはTLP (Transactional Licensing Program) とCLP (Contractual Licensing Program) があります。TLP、CLPで購入した ColdFusion には「Adobe プラチナ メンテナンス & サポート」をつけることはできません。サポートが必要な場合にはFLPでライセンスと「Adobe プラチナ メンテナンス & サポート」を購入してください。



3. メーカーサポート 提供期間

ColdFusion では、**通常サポート**（Core support）と**特別延長サポート**（Extended support）の2種類のメーカーサポートがバージョンごとに設定されています。

製品名	Version	販売開始日	通常サポート 終了日	特別延長サポート 終了日
Adobe ColdFusion	2018	2018年7月12日	2023年7月13日	2024年7月13日
Adobe ColdFusion	2016	2016年2月16日	2021年2月17日	2022年2月17日
Adobe ColdFusion	11.x	2014年4月29日	2019年4月30日	2021年4月30日
Adobe ColdFusion	10.x	2012年5月15日	2017年5月16日	2019年5月16日

<https://helpx.adobe.com/support/programs/eol-matrix.html>

特別延長サポートは、ユーザーが最新バージョンへアップグレードするための猶予期間に提供されるサポート、と位置づけられています。通常サポートとは提供内容及び保守価格が異なります。

特別延長サポート期間に入ると、セキュリティパッチやバグフィックスのためのパッチ、HotFix類は提供されなくなります。

保守価格は、通常サポート期間は「ライセンスの標準価格×20%」であるのに対し、特別延長サポート期間は「ライセンスの標準価格×25%」となります。

なお更新保守の価格の算出には別途、更新回数による再計算のルールがあります。正確な保守費用を知りたい場合は販売店までお申し付けください。

3. メーカーサポート サポート対象

● サポート対象の一覧

ColdFusion 2018

<https://helpx.adobe.com/pdf/coldfusion2018-support-matrix.pdf>

ColdFusion 2016

<https://helpx.adobe.com/pdf/coldfusion2016-support-matrix.pdf>

● 仮想化環境のサポート

仮想化環境はエンタープライズエディションでのみサポートされます。

スタンダードエディションでは仮想化環境はサポートされません。

ただしこれは、動作に問題があったためにサポート外になったわけではなく、メーカーがスタンダードエディションでの動作検証を行わないことにしたためです。仮想化環境でのスタンダードエディションの利用を制限したり禁止したりするものではありません。

サポートセンタへ技術問い合わせをしていた事象が、仮想化環境であることが原因であったことがわかった場合、エンタープライズエディションの場合は継続してサポートセンタで対応しますが、スタンダードエディションの場合はそこで対応終了となります。

4. ColdFusion 2016へのダウングレードについて

ColdFusion はダウングレード利用が可能です。

ColdFusion 2018を購入しColdFusion 2016にダウングレードする申請を行うことで、ColdFusion 2016を利用することができます。また、M&Sを購入している場合のサポート対象バージョンはColdFusion 2016になります。

なおダウングレードにはいくつかの注意事項があります。

- ・ダウングレードは、ユーザーがそのバージョンのインストーラーを持っていることが前提となっているため、インストールメディア及びインストールモジュールの提供は行われません。
- ・ダウングレードはアドビシステムズ社のダウングレードポリシーに基づいて行われます。ダウングレードポリシーでは、ダウングレードが認められるのは現時点で販売しているバージョンの1つ下のバージョンのみとしています。そのため、ColdFusion 2018 が販売されている期間はColdFusion 2018を購入して ColdFusion 2016 にダウングレードすることのみが可能であり、それよりも古いバージョン（ColdFusion 11やColdFusion 10）へダウングレードすることはできません。ColdFusion 2018の販売が終了すると、ColdFusion 2016へのダウングレードはできなくなります。
- ・ColdFusion 2018 を購入して ColdFusion 2016 にダウングレードする場合に適用されるEULA（製品使用許諾）は、ColdFusion 2018 のEULAです。ColdFusion 2016にダウングレードするライセンスであっても、ColdFusion 2018 のライセンスの考え方でライセンス数を数える必要があります。
- ・ダウングレード申請によって発行された ColdFusion 2016 の情報（シリアルキーやダウングレード完了日時等）は LWS（アドビのライセンスWEBサイト）には掲載されません。ダウングレード完了時にお送りする「ColdFusion 2016ダウングレード申請書兼受領確認書」にのみ掲載される情報となります。



5. ColdFusion Builder 2018 のバンドル提供

ColdFusion 2018 には ColdFusion Builder 2018 がバンドル提供されます。

エンタープライズエディション には ColdFusion Builder 2018 が 3 ライセンス、

スタンダードエディション には ColdFusion Builder 2018 が 1 ライセンス付属します。

ColdFusion 2018 の購入時、あわせてメーカーサポート「Adobe プラチナ メンテナンス & サポート」を購入した場合は、バンドルされている ColdFusion Builder 2018 もサポートの対象製品となり、技術問い合わせが可能です。

ColdFusion Builder 2018 のみの販売も行われています。



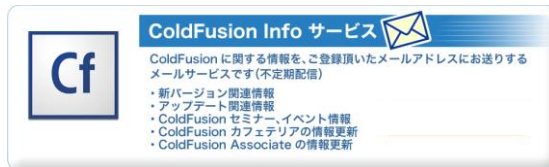
ColdFusion カフェテリア

ColdFusion の開発プロフェッショナルによる技術連載記事やサンプルプログラムを公開しています。



ColdFusion Associate

ColdFusion の開発会社・パートナー会社の情報と、ColdFusionの技術情報をFAQ形式で掲載しています。



ColdFusion Info サービス

ColdFusionのアップデート関連情報、セミナーイベント情報、新バージョン情報をお送りするメールサービスです。



ColdFusion 基礎プログラミング トレーニング

ColdFusionの開発初心者を対象とした、スクール形式のトレーニングコースです。ColdFusionベースのWebアプリケーション構築の基本部分の習得までを実習形式で行います。

株式会社サムライズ

アドビ・ソフトウェア事業部

ColdFusion ビジネスユニット

TEL : 03-5436-2042

Email : adobe_info@samuraiz.co.jp